

子育てを考える

人は哺乳動物です。食べ物が食べられるようになるまで母乳で育つのが本来の姿であるし、人類の歴史が始まって以来そうでした。乳を吸えない、あるいは吸う力が弱いと育つことは出来ませんでした。

昭和30年代に、自宅出産から入院出産に変わると連動して、急速にミルクで育つ赤ちゃんが増えて行きました。お母さんと離れて新生児室に入り、時間を決めて授乳をし、足りなければ飲むだけミルクを足すというシステムの中で母乳栄養率は一時20パーセント台まで落ちました。女性が働く場合に当時の産休は6週間だったので、当然ミルクを選択することになり、昭和44年に長男を出産した私もそうでした。昭和50年代から母乳を大切にしようとする動きがありましたが、国としての大きな転換は、平成19年に出た『授乳・離乳の支援ガイド』でしょう。この中で ①母児同室で ②赤ちゃんがほしがるときに授乳する ③従来指導されていた果汁、白湯、お茶

などはいらないなどが打ち出されました。

その効果でしょうか。10年ごとに出る厚労省からの「乳汁栄養法の割合」が昨年10月に出版されたが、月齢がすすんでも以前のように母乳栄養率が落ちていないのに驚きました。生後4-5ヶ月で母乳のみで育てている方が55%もいるのです。

母乳育児支援は私にとってずっと大切にしてきたテーマです。開業してからの20年間で母乳相談約4000回、市町から委託された産後の母子訪問も同じ位の回数になります。

何のトラブルもなく2人、3人と母乳で子育てをする方、乳腺炎や乳腺の詰まりなど繰り返すトラブルに苦しんでいる方、混合栄養だったけど、赤ちゃんが吸うたびに怒るようになり、仕方なく母乳を



第2回

母乳育児支援を通して

断念する方など出会うお母さんの状況はさまざま、とても複雑です。正しい知識があれば、あるいは適切なサポートがあれば母乳育児が楽しめたのと思える方々も多くいました。

母乳のよい点はいろいろありますが、母子関係について考えると、授乳の度にお母さんの脳下垂体から出るホルモン『オキシトシン』は愛着ホルモンとも呼ばれて、母子の絆を深める働きがあります。また、オキシトシンは男女間、親子間のスキンシップを通してお互いに出るもので、親密さを増すとされています。

子育てにおいて一番大切なことはお母さんが元気で、赤ちゃんに明るい笑顔を向けられることだと考えます。ミルクで育てようと決めたら、赤ちゃん遊ぶ時間や、スキンシップを大切に、ご自分の選択に自信を持って子育てを楽しみましょう。



いけぞえ助産院 池添 紀美代

困ったときの相談は下記にお問い合わせください。

助産師のほっと相談室(県内8会場で定期的実施)

●すこやか助産師センター Tel.087-844-4131(平日10時-16時)

池添 紀美代(いけぞえ きみよ)

昭和42年4月 国鉄中央保健管理所勤務(東京都)
昭和47年3月 香川県看護専門学校
公衆衛生看護助産学科卒業
昭和47年4月 保育所勤務
つくし保育園(高松市)他
昭和53年2月 奈良県立医大病院産科病棟勤務
昭和63年4月 久産婦人科医院勤務(奈良県)
平成 3年6月 いけぞえ助産院を開業(綾川町)
現在 社団法人香川県助産師会副会長

